

「豊かで活力のある 南島原市」をめざして

南島原市議会議長

日向 義忠



明けましておめでとうございます。市民の皆さまには、新たな希望と期待の中で、新春を迎えられたことと心からお慶び申し上げます。今年も皆さまにとりまして、良き年でありますよう心からお祈り申し上げます。

さて、早いもので合併後2回目の新春を迎えますが、これまで市議会としまして、山積する諸問題に誠心誠意、積極的に取り組んでまいりました。

昨年を振り返って見ますと、「行革元年」の掛け声のもと、さまざまな行財政の改革が進められております。まず、昨年7月には、合併時の8町分庁方式から3町分庁方式に本庁機能が集約されるとともに、総合支所のスリム化が図られました。

また、行財政改革の一環として、市直営の保育所、幼稚園や養護老人ホームの経営の見直しも進められております。

もちろん、私ども南島原市議会も行財政改革の必要性は十分認識しております。

しかし、改革を急ぐあまり、市民の皆さまの「暮らし」に支障を来たすことがないよう、市当局の動きをしつかりと注視してまいりたいと存じます。

国内外ともに著しく変貌する社会情勢の中で、あるいは国・地方の行財政制度改革が推進される中、本市においても、市民の生活圏域の拡大や高度情報化社会への対応、少子・高齢化社会をむかえての子育て支援や介護保険をはじめとする保健福祉の充実、環境問題やゴミ処理対策などの行政課題が山積しております。

しかしながら、私たちは、今こそ南島原市のおかれた現状を直視し、そして南島原市の未来について熟考し「豊かで活力のある南島原市」の実現を目指し、行動していく必要があると考えております。

今後とも、議会運営にあたっては、皆さま方のご意見、ご要望を拝聴し、「市民の皆さまがより一層快適に住み、

働き憩うことのできる南島原市」の実現を目指し、議員一同、力を合わせ、一層の努力をしていく所存でございます。

さて、私の好きな言葉に「仁・義・礼・智・信」という言葉があります。これは、人としての道、守るべき徳を説いた儒教の教えですが、「仁」とは、人を愛し思いやること、「義」とは、正義を貫く心、「礼」とは、礼儀礼節を尊ぶこと、「智」とは善悪を真に理解する知恵、「信」とは偽りなく信頼されること」とあります。

これらを実践するのは、とても難しく、私も多々反省することもございますが、政治に携わる身としては、どれもおろそかにはできない言葉であります。殺伐とした今の時代においてこそ、見直し、大切にされるべき価値観ではないでしょうか。

人の話をよく聞き、相手の立場に立つて物事を考えること、正しい行いをする事、おごることなく礼を尽くして人と接すること、偏った見方をせず正しい判断をすること、信頼されることなどであろうかと考えます。これらを肝に銘じ、市民の皆さまの負託に応える所存であります。

どうか、市民の皆さまにおかれまして、今まで以上の温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

どうぞ、新しい年が皆さまにとつて、心安らかな年となりますようお祈り申し上げますとともに、ご健勝、ご多幸を心より祈念申し上げます。年頭のごあいさつといたします。



新年あけましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、健やかで輝かしい新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。平素より、皆さまには市政に対し深いご理解とご支援、ご協力を賜っておりますことに対し、年頭にあたり厚く御礼申し上げます。



「始動」に次ぐ、 離陸のための「助走の年」 市の飛躍をめざして

南島原市長

松島 世佳

早いもので、一昨年の3月に8町が合併し、南島原市が誕生してから間もなく2年となります。

私は昨年を「南島原市発展の礎を創る年」と位置づけ、全力をあげて行財政改革など市の基盤づくりに取り組んでまいりました。

観光を始めとする地域産業の振興やコミュニティの再生、あるいは未来を指向した市総合計画の策定など、市民の皆さまとともに、さまざまな種を蒔いてきました。

今年は更に水をやり、芽を出させ、大きく育てていくことを目指します。その意味で、今年は「始動」に次ぐ、離陸のための「助走の年」と言うことができます。

さて、昨年を振り返ってみますと、1月には、「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産暫定リストに登録されるという嬉しいニュースが飛び込んできました。

このキリスト教関連遺産の中には、皆さまご承知のとおり本市にある「原城跡」、「日野江城跡」、「吉利支丹墓碑」が含まれており、世界遺産本登録に向け、準備・検討し、市全体の総意の醸成を図っていくなど今年は大切な年となります。

また、島原鉄道南線廃止の問題につきましては、市民の足の確保が大きな課題となりました。現在、路線廃止に伴う代替バス運行計画を精査し、市民の足に極大影響が出ないよう(株)島原鉄道並びに関係自治体と協議を進めているところであります。

4月には、選挙期間中に長崎市長が暴力団幹部に銃撃され逝去されという、痛ましい事件が発生いたしました。事件は、自由と民主主義への挑戦で、断じて許すことはできません。いかなる暴力行為も許さない社会環境の醸成に努め、安心して生活できる社会の実現に向けまい進ずることをお誓いするとともに、前長崎市長(故伊藤一長様)のご冥福を心からお祈り申し上げる次第であります。

5月には、新市を元気あふれるふるさとにするため、誰でも参加でき、市民の皆さまの意見や地域の声を伺う、市民懇談会(タウンミーティング)を8会場で実施いたしました。

7月には、本庁部局の職員320人程度を、市内中央部にあって比較的新しく規模も大きい有家、西有家、南有馬の3庁舎に集約するとともに、機能的に仕事が進められるよう部や課などの配置や業務内容を見直し、市民のニーズに迅速に対応できる体制を整えました。

10月には、南島原市誕生後初めての市表彰式を多数の来賓をお迎えし、開催したところです。

12月には、幼児教育と経営のあり方検討委員会並びに市立養護老人ホームの経営のあり方検討委員会の両委員会から答申をいただきました。今後はこれらの答申を踏まえ実施に移すことにより、市の基盤の強化を図ってまいりたいと考えております。

また、今後10年間の市政の基本指針となる「南島原市総合計画」を策定し、基本理念として『みんなが主

役「市民協働のまちづくり」、市の将来像を「太陽の恵みと世界遺産のまち」「生活重視の安心・安全のまち」「自然・歴史・食の産地を地域ブランドにひときわ輝くまち」「ずっと働ける元気な産業のまち」を目標に掲げました。その中に、重点プロジェクトとして、今後5年間、特に力を入れる事業を定め、まちづくりを展開してまいります。

市を取り巻く環境を展望しますと、少子高齢化、若年層の流失、雇用の場が少ないなど過疎化に歯止めがかからず、また、国においては、「新分権一括法案」の国会提出を目指し、議論が進められておりますが、三位一体改革による地方交付税の削減など、厳しい状況にあります。そのような中であつて魅力ある「ふるさと」づくりが求められ、夢や希望の持てる政策を進めていくことが必要であります。次代を担う子供たちの健やかな成長を支え、美しい自然と伝統を引き継ぎ、まちの元気の源である地域経済の活性化を実現し、そして誰もが安全に安心して暮らしていくことができるよう、市民の皆さまとともに全力を尽くしてまいりたいと存じます。

どうか今年一年、市民の皆さまがお幸せでありますようお祈りして新春のごあいさつといたします。

役「市民協働のまちづくり」、市の将来像を「太陽の恵みと世界遺産のまち」「生活重視の安心・安全のまち」「自然・歴史・食の産地を地域ブランドにひときわ輝くまち」「ずっと働ける元気な産業のまち」を目標に掲げました。その中に、重点プロジェクトとして、今後5年間、特に力を入れる事業を定め、まちづくりを展開してまいります。

市を取り巻く環境を展望しますと、少子高齢化、若年層の流失、雇用の場が少ないなど過疎化に歯止めがかからず、また、国においては、「新分権一括法案」の国会提出を目指し、議論が進められておりますが、三位一体改革による地方交付税の削減など、厳しい状況にあります。そのような中であつて魅力ある「ふるさと」づくりが求められ、夢や希望の持てる政策を進めていくことが必要であります。次代を担う子供たちの健やかな成長を支え、美しい自然と伝統を引き継ぎ、まちの元気の源である地域経済の活性化を実現し、そして誰もが安全に安心して暮らしていくことができるよう、市民の皆さまとともに全力を尽くしてまいりたいと存じます。

どうか今年一年、市民の皆さまがお幸せでありますようお祈りして新春のごあいさつといたします。

